

## 西沢記念基金設立趣意書

去る昭和59年1月に、西沢邦夫氏が急逝されました。西沢氏は、児研三田会創立以来、当会の運営に多大な力を尽くしてこられた方です。当会創立時より会長および事務局長を歴任し、一貫して当会運営の中心となって非常な努力を注いでこられました。児研三田会が発足以来十余年を迎えることが出来たのも、ひとえに同氏の献身的なご尽力の賜物と言っても、決して過言ではないと思います。ここに西沢氏のご冥福を心よりお祈り致します。

さて、西沢氏の業績に報い、永く同氏のお名前を何らかの方法で遺したいというご提案が、何人かの会員の方よりありました。これを受けて、児研三田会では役員および事務局員を中心として、検討をしてみました。そして、現役の活動を補助することを目的とする、西沢記念基金を設立するのが最善の方法である、との結論に達しました。

西沢氏が生前に最も気に懸けておられましたことは、先ず第一に、現役である慶應義塾大学児研の活動を、如何にOB、OG達が援助してゆくかという点です。第二には、そういったOB、OG達の横の繋がりのみでなく、年代を超えて縦の繋がりをも広げて行きたいという点でした。このような気持ちは、おそらく児研に何年か関わった方ならば、誰でも多かれ少なかれ、お持ちになっているものと思います。児研三田会も微力ながら、こういった気持ちを具現化させる、お手伝いをしてきました。しかし残念ながら未だに充分であるとは言えないのが現状であり、特に、第一の現役に対する援助につきましては、全く不十分であったと思います。

そこで、この際、西沢氏の記念事業として、現役に対する補助財源の基礎を確保する目的の基金を設立し、同氏のご遺志に報いたいと考えた訳です。この基金は、児研三田会運営費とは全く別個のもので、会計も独立させ、その利子によって現役の活動を援助するという目的でのみ運営します。当面、この基金の運営は、児研三田会事務局が窓口となりますが、この点をどうぞ誤解無く、ご理解下さいますように、お願い致しますとともに、この趣旨にご賛同賜りますよう、お願い致します。

西沢氏をご存知の方も、ご存知でない方も、また児研三田会に、ご入会されている方も未だご入会なされていない方も、とにかく現役の活動に何かの援助をしても良いとお考えでしたら、この基金の企画にご賛同を頂き、ご寄付頂ければ幸いに思います。一人一人の額が小額でありましても、まとまれば大きな力になることと思います。

なお、蛇足とは思いますが、昔より「金は出しても、口は出さない」というのが、最良の先輩であると言われております。本基金の運用に当たりましても、現役に対して援助を行ないます際には、その使途に関しましては、現役の児研会員に任せたいと考えております。使途に関する会計報告は、もちろんしてもらいますし、当会におきましても、会報や総会の場で、ご報告する所存です。

別添の西沢記念基金規約ならびに同募集要項をご通読の上、何卒応分のご寄付を賜りますよう、よろしくお願い致します。

最後に、諸兄弟のご健康と益々のご発展をお祈りし、ご挨拶に代えさせていただきます。

昭和60年5月

西沢記念基金設立発起人代表

秋口 久